

2 節 下地調整

7. 2. 1 施工一般

塗替えて、表 7.2.1 から表 7.2.7 までの R B 種の場合の既存塗膜の除去範囲は、特記による。特記がなければ、劣化部分は除去し、活膜部分は残す。

7. 2. 2 木部の下地調整

木部の下地調整は表 7.2.1 により、種別は特記による。特記がなければ、不透明塗料塗りの場合は、R B 種とする。

表 7. 2. 1 木部の下地調整

工 程	種 別			塗料その他			日本ペイント 商品名	面の処理
	RA 種	RB 種	RC 種	規格 番号	規格名称	種類		
1 既存 塗膜の 除去	○	—	—	—			—	スクレーパー、研磨紙等により、全面除去する。
	—	○	—	—			—	スクレーパー、研磨紙等により、劣化部分を除去し、活膜は残す。
2 汚れ、 付着物 除去	○	○	○	—			—	素地を傷つけないように除去する。油類は、溶剤等でふき取る。
3 研磨紙 ずり	○	○	—	研磨紙 P 1 2 0 ～ 2 2 0			—	露出素地面、既存塗膜面を研磨する。
	—	—	○	研磨紙 P 2 4 0 ～ 3 2 0			—	
4 節止め	○	—	—	JASS 18 M-304	木部下塗 り用調合 ペイント	合成樹脂	H i - C R 下塗 白(無鉛) 塗料用シンナー-A 0～5%	節及びその周囲に、 はけ塗りを行う。
				JASS 18 M-308	セラック ニス類	白ラック ニス 1 種	—	
5 穴埋め	○	—	—	JIS K 5669	合成樹脂 エマルシ ョンパテ	耐水形	H i ビニレック ス耐水パテ (仕上)	割れ、穴、隙間、くぼ み等に充填する。
6 研磨紙 ずり	○	—	—	研磨紙 P 1 2 0 ～ 2 2 0			—	穴埋め乾燥後、全面を 平らに研磨する。

(注) 1. やに処理は、やにを、削り取り又は電気ごて焼きのうえ、溶剤等でふき取る。

2. ラワン、しおじ等導管の深いもの場合は、必要に応じて、工程 2 の後に塗料の製造所の指定する目止め処理を行う。

3. 合成樹脂エマルションパテは、外部に用いない。

4. JASS 18 M-304 及び M-308 は、日本建築学会材料規格である。

5. 工程 4 の節止めにおいて、合成樹脂調合ペイント塗り及びつや有り合成樹脂エマルションペイント塗りの場合は JASS 18 M-304 を適用し、それ以外は JASS 18 M-308 を適用する。

7. 2. 3 鉄鋼面の下地調整

鉄鋼面の下地調整は表 7.2.2 により、種別は特記による。特記がなければ、R B種とする。

表 7. 2. 2 鉄鋼面の下地調整

工 程		種別			塗料その他	面の処理
		RA 種	RB 種	RC 種		
1	既存塗膜の 除去	○	—	—	—	ディスクサンダー、スクレーパー等により、塗膜、錆等を全面除去する。
		—	○	—	—	ディスクサンダー、スクレーパー等により、劣化しぜい弱な部分、錆等を除去し、活膜は残す。
2	汚れ、付着物除去	○	○	○	—	素地を傷つけないようにワイヤブラシ等により、除去する。
3	油類除去	○	○	—	—	既存塗膜を除去した範囲を溶剤ぶき。
4	研磨紙ずり	○	○	—	研磨紙 P 1 2 0 ～ 2 2 0	全面を平らに研磨し、研磨かす等を除去する。
		—	—	○	研磨紙 P 2 4 0 ～ 3 2 0	

7. 2. 4 亜鉛めっき鋼面の下地調整

亜鉛めっき鋼面の下地調整は表7.2.3 により、種別は特記による。特記がなければ、R B種とする。

表 7. 2. 3 亜鉛めっき鋼面の下地調整

工 程		種別			塗料その他	面の処置
		RA 種	RB 種	RC 種		
1	既存塗膜の 除去	○	—	—	—	ディスクサンダー、スクレーパー等により、塗膜、錆等を全面除去する。
		—	○	—	—	ディスクサンダー、スクレーパー等により、劣化しぜい弱な部分、錆等を除去し、活膜は残す。
2	汚れ、付着物除去	○	○	○	—	素地を傷つけないようにワイヤブラシ等により、除去する。
3	油類除去	○	○	—	—	溶剤ぶき
4	研磨紙ずり	○	○	○	研磨紙 P 2 4 0 ～ 3 2 0	全面を平らに研磨し、研磨かす等を除去する。

(注) 無塗装既存亜鉛めっき鋼面に塗装を行う場合は、R A種とし、工程 1 を省略する。

7. 2. 5 モルタル面及びせっこうプラスター面の下地調整

モルタル面及びせっこうプラスター面の下地調整は表 7. 2. 4 により、種別は特記による。特記がなければ、R B種とする。

表 7. 2. 4 モルタル面及びせっこうプラスター面の下地調整

工 程		種別			塗料その他			日本ペイント 商品名	面の処置
		RA 種	RB 種	RC 種	規格 番号	規格名称	種類		
1	既存 塗膜の 除去	○	—	—	—			—	ディスクサンダー、スクレーパー等により、全面除去する。
		—	○	—	—			—	ディスクサンダー、スクレーパー等により、劣化しぜい弱な部分を除去し、活膜は残す。
2	汚れ、 付着物 除去	○	○	○	—			—	素地を傷つけないようにワイヤブラシ等により、除去する。
3	ひび割れ 部の補修	○	○	—	—			—	4 章[外壁改修工事]によるひび割れ部の補修は、特記による。
4	吸込止め	○	○	—	JIS K 5663	合成樹脂エ マルション シーラー	—	水性透明 シーラー※ 水道水 100%	既存塗膜を除去した範囲に塗り付ける。
5	穴埋め、 パテかい	○	○	—	JIS A 6916	建築用下地 調整塗材	C-1	1材フィラー #200	ひび割れ、穴等を埋めて不陸を調整する。
					JIS K 5669	合成樹脂エ マルション パテ	耐水形	H i ビニレ ックス耐水パ テ(仕上)	
6	研磨紙 ずり	○	○	—	研磨紙 P 1 2 0 ~ 2 2 0			—	乾燥後、表面を平らに研磨する。
		—	—	○	研磨紙 P 2 4 0 ~ 3 2 0			—	
7	パテ しごき	○	—	—	JIS A 6916	建築用下地 調整塗材	C-1	1材フィラー #200	全面をしごき取り平滑にする。
					JIS K 5669	合成樹脂エ マルション パテ	耐水形	H i ビニレ ックス耐水パ テ(仕上)	
8	研磨紙 ずり	○	—	—	研磨紙 P 1 2 0 ~ 2 2 0			—	乾燥後、全面を平らに研磨する。

(注) 1. アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りの場合、工程 4 の吸込止めは、塗料の製造所の指定するものとする。

2. 合成樹脂エマルションパテは、外部に用いない。

※ 吸込止めには、水性透明シーラー以外に、水性ホワイトシーラー、水性シミ止めシーラーⅡ、水性カチオンシーラー透明、水性カチオンシーラーホワイトも適用可能です。

7. 2. 6 コンクリート面、ALCパネル面及び押出成形セメント板面の下地調整

- (1) コンクリート面及びALCパネル面の下地調整は表 7.2.5 により、種別は特記による。
特記がなければ、RB種とする。ただし、8節「耐候性塗料塗り（DP）」の場合は、
(2)による。

表7. 2. 5 コンクリート面及びALCパネル面の下地調整

工 程		種別			塗料その他			日本ペイント 商品名	面の処置
		RA 種	RB 種	RC 種	規格 番号	規格名称	種類		
1	既存 塗膜の 除去	○	—	—	—			—	ディスクサンダー、スクレーパー等により、全面除去する。
		—	○	—	—			—	ディスクサンダー、スクレーパー等により、劣化しぜい弱な部分を除去し、活膜は残す。
2	汚れ、付着物 除去	○	○	○	—			—	素地を傷つけないようにワイヤブラシ等により、除去する。
3	ひび割れ部の 補修	○	○	—	—			—	4 章「外壁改修工事」によるひび割れ部の補修は、特記による。
4	吸込 止め	○	○	—	JIS K 5663	合成樹脂エ マルション シーラー	—	水性透明 シーラー※ 水道水 100%	既存塗膜を除去した 範囲に塗り付ける。
5	下地 調整 塗り	○	—	—	JIS A 6916	建築用下地 調整塗材	C-1、 C-2、 CM-2 又はE	(C-1) 1材フィラー #200	全面に塗り付けて 平滑にする。
								(C-2) 1材カチオン フィラー	
								(E) アンダーフィ ラーS、 アンダーフィ ラーAL	
		—	○	—	JIS A 6916	建築用下地 調整塗材	C-1、 C-2、 CM-2 又はE	(C-1) 1材フィラー #200	既存の塗膜の除去部分 の不陸を調整する。
								(C-2) 1材カチオン フィラー	
								(E) アンダーフィ ラーS、 アンダーフィ ラーAL	
					JIS K 5669	合成樹脂エ マルション パテ	耐水形	Hiビニレッ クス耐水パテ (仕上)	
6	研磨紙 ずり	○	○	—	研磨紙P 120～220			—	乾燥後、表面を平らに 研磨する。
		—	—	○	研磨紙P 240～320			—	
7	パテ しごき	○	—	—	JIS A 6916	建築用下地 調整塗材	C-1	1材フィラー #200	全面をしごき取り平滑 にする。

					JIS K 5669	合成樹脂エ マルション パテ	耐水形	H i ビニレ ックス耐水パテ (仕上)	
8	研磨紙 ずり	○	—	—	研磨紙 P 1 2 0 ~ 2 2 0			—	乾燥後、全面を平らに 研磨する。

- (注) 1. コンクリート面の場合は、工程 4 は省略する。
2. 合成樹脂エマルションパテは、外部に用いない。
3. 工程 5 の建築用下地調整塗材の C-1、C-2、CM-2 又は E の使い分けは、4.5.5 [既存コンクリート打放し仕上げ外壁、既存モルタル塗り仕上外壁等の下地調整] の(ア)及び(イ)による。
なお、ALC パネル面において、下地調整塗材 E を用いた場合、工程 4 を省略する。

※ 吸込止めには、水性透明シーラー以外に、水性ホワイトシーラー、水性シミ止めシーラーⅡ、水性カチオンシーラー透明、水性カチオンシーラーホワイトも適用可能です。

- (2) 押出成形セメント板面及び 8 節 [耐候性塗料塗り (DP)] におけるコンクリート面の下地調整は、表 7.2.6 による。ただし、種別は、塗り工法に応じた節の規定による。

表 7. 2. 6 コンクリート面及び押出成形セメント板面の下地調整

工 程		種別			塗料その他			日本ペイント 商品名	面の処置
		RA 種	RB 種	RC 種	規格 番号	規格名称	種類		
1	既存 塗膜の 除去	○	—	—	—			—	ディスクサンダー、スクレーパー等により、全面除去する。
		—	○	—	—			—	ディスクサンダー、スクレーパー等により、劣化しぜい弱な部分を除去し、活膜は残す。
2	汚れ、 付着物 除去	○	○	○	—			—	素地を傷つけないようにワイヤブラシ等により、除去する。
3	ひび割 れ部の 補修	○	○	—	—			—	4 章[外壁改修工事]によるひび割れ部の補修は、特記による。
4	下地 調整 塗り (注) 1	○	—	—	JIS A 6916	建築用下地 調整塗材	C-1、 C-2 又は CM-2	(C-1) 1 材フィラー # 2 0 0 (C-2) 1 材カチオン フィラー	全面に塗りつけて平滑にする。
		—	○	—	JIS A 6916	建築用下地 調整塗材	C-1、 C-2 又は CM-2	(C-1) 1 材フィラー # 2 0 0 (C-2) 1 材カチオン フィラー	
					JIS K 5669	合成樹脂エ マルション パテ	耐水形	H i ビニレ ックス耐水パテ (仕上)	既存の塗膜の除去部分の不陸を調整する。

5	吸込止め	○※	○	—	JASS 18 M-201	反応形合成樹脂シーラーおよび弱溶剤系反応形合成樹脂シーラー	—	浸透性シーラー（新）、ファイン浸透シーラー（透明・ホワイ） 無希釈	既存塗膜を除去した範囲に塗り付ける。
6	パテしごき	○	—	—	JASS 18 M-202	反応形合成樹脂パテ	2液形エポキシ樹脂パテ	タフガードEパテN-2	全面をしごき取り平滑にする。
7	研磨紙 ずり	○	—	—	研磨紙P 1 2 0～2 2 0			—	乾燥後、全面を平らに研磨する。
		—	—	○	研磨紙P 2 4 0～3 2 0			—	

- (注) 1. 押出成形セメント板面の場合は、工程4を省略する。
2. 8節「耐候性塗料塗り（DP）」におけるコンクリート面の場合、工程4の建築用下地調整塗材のC-1、C-2又はCM-2の使い分けは、4.5.5「既存コンクリート打放し仕上げ外壁、既存モルタル塗り仕上外壁等の下地調整」(ア)による。
3. 工程5のシーラー及び工程6のパテは、上に塗り重ねる塗料の製造所の指定するものとする。
4. JASS 18 M-201 及びM-202 は、日本建築学会材料規格である。
5. 屋内で現場塗装する場合、工程5の吸込止め及び工程6のパテしごきに使用する材料は、上に塗り重ねる塗料の製造所の指定する水系塗料とする。
吸込止め：水性カチオンシーラー透明、又は水性カチオンシーラーホワイ
パテしごき：Hiビニレックス耐水パテ（仕上）

＊Hiビニレックス耐水パテ（仕上）は屋外及び水回り部には使用しないでください。

※RA種の場合は、浸透性シーラー（新）をご使用ください。

7. 2. 7 セっこうボード面及びその他ボード面の下地調整

セっこうボード面及びその他ボード面の下地調整は表 7.2.7 により、種別は特記による。特記がなければ、R B 種とする。

表 7. 2. 7 セっこうボード面及びその他ボード面の下地調整

工 程		種別			塗料その他			日本ペイント 商品名	面の処置
		RA 種	RB 種	RC 種	規格 番号	規格名称	種類		
1	既存 塗膜の 除去	○	—	—	—			—	全面除去する。
		—	○	—	—			—	劣化しぜい弱な部分を 除去し、活膜は残す。
2	汚れ、 付着物 除去	○	○	○	—			—	素地を傷付けないよう に除去する。
3	穴埋め パテ かい	○	○	—	JIS K 5669	合成樹脂 エマルシ ョンパテ	一般形	Hi ビニレ ックスエ コ仕上 げパテ	釘頭、たたき跡、傷等 を埋め、不陸を調整す る。
					JIS A 6914	セっこうボ ード用目 地処理材	ジョイン トコンパ ウンド	—	
4	研磨紙 ずり	○	○	—	研磨紙 P 1 2 0 ～ 2 2 0			—	乾燥後、表面を平らに 研磨する。
		—	—	○	研磨紙 P 2 4 0 ～ 3 2 0			—	
5	パテ しごき	○	—	—	JIS K 5669	合成樹脂 エマルシ ョンパテ	一般形	Hi ビニレ ックスエ コ仕上 げパテ	全面をしごき取り平滑 にする。
					JIS A 6914	セっこうボ ード用目 地処理材	ジョイン トコンパ ウンド	—	
6	研磨紙 ずり	○	—	—	研磨紙 P 1 2 0 ～ 2 2 0			—	乾燥後、全面を平らに 研磨する。

- (注) 1. 屋外及び水回り部の場合は、工程 3 及び工程 5 の合成樹脂エマルションパテは、上に塗り重ねる塗料の製造所の指定するものとする。(Hi ビニレックスエコ仕上
げパテは屋外及び水回り部には使用しないでください。)
2. 工程 3 及び工程 5 のセっこうボード用目地処理材は、素地がセっこうボード面の場合に適用する。
3. けい酸カルシウム板面の場合は、工程 3 の前に吸込止めとして JASS18 M-201 に基
づく塗料(浸透性シーラー(新)またはファイン浸透シーラー(透明・ホワイト))を全面に塗る。ただし、屋内で現場塗装する場合、吸込止めに用いる材料
は、上に塗り重ねる塗料の製造所の指定する水系塗料(水性カチオンシーラー透
明、又は水性カチオンシーラーホワイト)とする。
4. 仕上材が仕上塗材の場合、工程 3 及び工程 5 に用いる塗料その他は、仕上塗材の製
造所の指定するものとする。

